



● 目次 ●

使われてこそ、喜ばれてこそ …… 2

なんまん、なんまん、ありがとう …… 6

お風呂でお念仏 …… 10

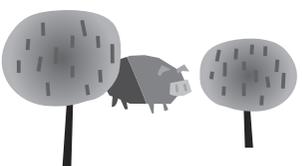
報恩行なすべきいのちいまだあり …… 15

寺院活動には感動が不可欠 …… 19

ともに悲しみ、涙してこそ …… 23

仏さまからのいただきもの …… 28

表紙絵・挿絵／西宮えみ



ほっわ・HOWA・法話20

どうでもよいでもありがよい

● 藤実無極 ●



使われてこそ、喜ばれてこそ

いつの間にか七十歳を越え、戦中、戦後と無事のちをいただき、生きるというより、生かされているという思いです。振り返ってみると、だれ一人、自分から人間に生まれたいと望み、願ったというわけではありません。両親を縁として、不思議な因縁で人間に生まれ、育ててもらって大きくなりました。そしてここまでも、さらにこれからも生きるいのちをいただいています。本当にありがたいことです。

「価値ある存在」と阿弥陀さまが認めていてくださっているのかもしれないなど考えることもあります。

数知れない多くの生きもの（動植物）が地球に存在しています。それぞれみんな「価値ある」と認められているから、安心して生きているように

感じます。まさに「共生」です。しかしながら、人間は自分のひとり舞台であるかのように、地水火風（四大）を支配しています。

地球の温暖化をあげてみますと、この百年で気温が二度高くなったといわれます。いわれてみると、冬の積雪量も少なくなっているようです。北極の氷も年々溶けていると報道されています。大地の砂漠化や、水質汚染の問題、不安を募らせる原子力発電所の課題、大気の汚染などを考えてもわかるように、これまでもこれからも、人間の膨らむ欲望を限りなく満たそうとしているのが私たちの実態です。

私たちはみんな、何も持たずに手ぶらでこの世に生まれてきました。生きていくために欠かすことができない、大地、水、太陽の光、空気。必要不可欠なものが、すでに用意されていたことに気づくのは、何年、何十年も経ってからです。ひよつとしたら、一生気づかずに見過ごしている人



もいるかもしれませんが。あまりにも存在が大きいために、ついあるのが当たり前と感じているのでしょうか。こんなにもあさましい私、否、いのちあるすべてが、平等に、分け隔てなく、どこでも離れることなく、護られていると感じます。西行法師（一一一八―一九〇）の「なにごとの おわしますかは 知らねども かたじけなさに 涙こぼる」という心境を思い起こしています。

戦後の七十年を目のあたりにして

きた私ですが、ここまで生かされ生きていることに対する「かたじけなさ」を自覚せずにはおられません。その想いは年々、深く大きくなっていくようです。だからこそでしょうが、「報恩行なすべきいのちいまだあり」と自身を奮い立たせて、少しでも世のため人のために役立ちたいと考えて、努力精進していかうと思っています。七十年あまりかけて蓄えた知識、技能を使わせていただき、感動と喜びを与えることができれば、こんなうれしいことはありません。

親鸞聖人、蓮如上人が高齢になられても、なおご法義ほうぎの繁昌はんじょうにご苦勞くらうされていたことを思うと、まだまだこれからだと元氣も出ます。これまでも、これからも「使われてこそ、喜ばれてこそ」を心に、精進するばかりです。